

## おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会 令和5年度 事業報告

小笠原世界遺産センター動物対処室の管理運営及び施設を活用した事業実施を通じて、「人とペットと野生動物が共存する島づくり」を実現し、ひいては世界自然遺産に登録された稀有な生態系とそこに生息する野生動物を保全することを目的とし、関係機関・団体との協力のもと、(Ⅰ)外来種による被害や人為的影響等を受ける野生動物の保護、(Ⅱ)ペット由来の外来種である飼い主のいないネコ対策、(Ⅲ)ペット由来の外来種を生み出さないための適正飼養の推進、その他目的を達成するために必要な事業を実施する。

なお、(Ⅰ)、(Ⅱ)については、下部に設置した各部会にて協議会事業の具体的な事項の調整・検討を行っており、(Ⅲ)については、ペット条例の運用を通じて進めている内容もあるため、協議会予算化関連事業以外は、参考情報とする。

### (Ⅰ) 幹事会・総会

#### ○第1回幹事会（5月19日）

##### ・R4 事業報告・決算報告と R5 事業計画・予算について

対処室での野生動物の治療体制・設備の再検討、ペット診療における手数料価格の見直し等について議論を行った。

#### ○第1回総会（5月26日）

##### ・R4 事業報告・決算報告と R5 事業計画・予算について

対処室運営の財源や村の負担金等について議論を行った。

#### ○第2回総会（12月22日） 書面開催

##### ・旅費支給に関する規定の一部改正、職員の昇給について

#### ○第2回幹事会（3月26日）

##### ・R5 事業報告・決算報告と R6 事業計画・予算について

参考：東京都獣医師会への協力依頼

#### ○小笠原における人とペットと野生動物の共存に向けた取組（6月22日）

・派遣診療のための来島依頼ほか 【環境省・林野庁・東京都・小笠原村・IBO】

### (Ⅱ) 外来種による被害や人為的影響等を受ける野生動物の保護に関すること

#### (1) 小笠原希少鳥獣等に関する連絡調整部会の開催状況【環境省】

##### ○第1回（4月21日）

##### ・部会設置の経緯と目的について

##### ・傷病発生時の連絡体制について

##### ・MRSA 罹患個体の対応と今後の感染防止について

－ MRSA 罹患個体の安楽殺及び島内関係者への説明、

今後の野生動物救護における感染対策等について議論を行った。

##### ○情報共有・関係者打合せ等

- ・ 対処室での野生動物診療再開について（6/8）【環境省・東京都・小笠原村・IBO】  
動物対処室内での野生動物の治療について、消毒・感染対策を行った上で暫定的に運用開始することとなった。
- ・ 傷病鳥獣対応の方針について（9/12, 11/14）【環境省・東京都・小笠原村・IBO】  
（※12/8 環境省・IBO で個別打合せ）
  - 「小笠原諸島における傷病鳥獣救護に関する考え方」について検討を行い、環境省が作成した素案を示し意見交換を行った。
  - 令和6年度より東京都の一時保護飼養の期間を実態に合わせて10→3日間とする。4日目以降は環境省対応。
- ・ 鳥インフルエンザ対応について（12/8 メール周知及び島内掲示）
- ・ 小菊獣医師による油汚染水鳥救護研修（試行版）の実施（2/19）5頁の課題参照【環境省・林野庁・東京都・小笠原村・IBO】



油汚染水鳥救護研修の実習風景

## （2）傷病鳥獣の治療【動物対処室】

- ・ 令和5年度に保護された野生動物135個体<sup>参考1</sup>のうち、鳥獣保護管理員等から傷病個体の連絡や相談を受け、診療が必要と判断した28個体について、診察・治療を実施。また、飼育中の5個体の診察・治療及び、生態情報の蓄積や傷病原因の判定のため、死亡した13個体の病理解剖を実施。詳細は、次頁のとおり。過年度実績は22～26頁を参照。
- ・ MRSA感染症予防対策の暫定的な措置として、令和4年7月8日以降の保護個体は原則動物対処室に搬送せず、遠隔指示及び物品提供のみに切り替え、IBOの飼育施設等において治療を実施していたが、令和5年3月に対処室全体の消毒作業を行い、翌月には獣医師が交代したため、往診対応のみで傷病鳥獣の治療を再開。さらに6月9日の同室全体の徹底した消毒を実施後は、レントゲン検査等の入室が必要な検査等を暫定的に再開。詳細は（IV）動物対処室の運営（1）実施報告（19～20頁）のを参照。

### 【成果】

- ・ 4/8 保護のオオコウモリは右上腕骨の複雑骨折で、従来は内地の動物園搬送案件の重症例であったが、小笠原で初めてとなる絶滅危惧種の本格的な手術が対処室において実現した。
- ・ 5/28, 6/7, 10/30 に保護されたオオコウモリは、重傷または重体であり、対処室の治療により野生復帰が可能となった。
- ・ 8/13, 14 に死亡回収されたオオコウモリの事故現場は、死亡個体以外に10頭前後が飛来中で、事故が続発する危険性が極めて高かった。対処室の即日の病理解剖から

感電死と死因特定されたことで、電力会社による速やかな感電予防対策の実施につながり、死亡事故の拡大を防ぐことが出来た。

- ・過去には、無対応であったアカガシラカラスバトの死亡個体への、対処室による積極的な剖検の実施によって、交通事故、バードストライク等の死因が解明され、事故予防や危険周知につながった。
- ・複数例の海鳥等（保護、死体）で実施されたレントゲン検査の結果が、一時保護の方針決定や危険周知に役立った。

表：主な野生動物の対応実績（令和5年度）

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2022	6	24	アカガシラカラスバト	奥村 うずくまり 尾羽無し	入院、ICU、糞便検査、 皮下点滴・注射、 MRSA 検査→陽性→陰転	2022.6/24~ 7/23~3/31 (入院のみ)	302	2023.4/29 安楽殺
					入院			
2023	4	7	アカガシラカラスバト	八瀬川 片翼たれていた	洗浄・消毒、皮下点滴・ 注射、MRSA 検査→陰性	2023.4/7~11	6	2023.4/12 上野動物園へ 搬送 →手術中に死 亡
2023	4	7	アカガシラカラスバト	小学校入口 バードストライク	皮下点滴、 MRSA 検査→陰性	2023.4/7~11	4	2023.4/12 上野動物園へ 搬送
2023	4	8	オガサワラオオコウモリ	清瀬の公園で衰弱 右上腕骨の 複雑骨折	外科手術、血液検査、 レントゲン検査、洗浄・ 消毒、皮下点滴・注射	2023.4/9~18	19	2023.4/18 手術中に死亡
-	-	-	カツオドリ	飼育個体 衰弱→死亡	細胞診、食餌介助、皮下 点滴・注射、病理解剖	2023.5/14,15	2	死因：斃死
2023	5	28	オガサワラオオコウモリ	西町ネット絡まり 右前膜の翼膜壊死	洗浄・消毒、皮下注射	2023.5/29~ 6/11	15	2023.7/7 野生復帰
2023	6	7	オガサワラオオコウモリ	小曲ネット絡まり 熱中症、翼膜壊死	洗浄・消毒、皮下点滴・ 注射、MRSA 検査	2023.6/7~ 8/3	25	2023.8/25 野生復帰
2023	6	7	オガサワラオオコウモリ	小曲ネット絡まり 熱中症、翼膜壊死	洗浄・消毒、皮下点滴・ 注射	2023.6/7~ 8/24	26	飼育継続中
2023	6	7	オガサワラオオコウモリ	小曲ネット絡まり 熱中症、翼膜壊死	血液検査、洗浄・消毒、 皮下点滴・注射	2023.6/7~ 8/24	26	飼育継続中
2023	6	24	アカオネッタ イチョウ	二見港 船甲板 うずくまり	レントゲン検査	2023.6/26	1	2023.7/1 南硫黄島沖で 野生復帰
2022	-	-	オガサワラ カワラヒワ	域外繁殖用 飼育個体#7	換羽期の体調不良の相談	2023.6/30	1	飼育継続中
2023	7	27	オガサワラ ノスリ	行文線路上 死体	病理解剖	2023.7/27	1	死因：斃死
2022	9	20	オガサワラ オオコウモリ	清瀬うずくまり 幼獣(飼育個体)	診察、MRSA 検査	2023.7/25, 8/3	2	飼育継続中
2023	8	13	オガサワラ オオコウモリ	死亡個体 清瀬交 差点(バス停)回収	病理解剖	2023.8/13	1	死因：感電死
2023	8	14	オガサワラ オオコウモリ	死亡個体 清瀬交 差点(バス停)回収	病理解剖	2023.8/18	1	死因：感電死

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2023	8	14	オナガ ミズナギドリ	奥村グラウンド うずくまり	安楽殺	2023.8.18	1	2023.8/18 安楽殺
2023	8	17	アナドリ	二見湾 漂流	安楽殺	2023.8.18	1	2023.8/18 安楽殺
2023	8	25	ムナグロ	死亡個体 回収場所不明	病理解剖	2023.8.29	1	死因:両足骨折
2023	8	30	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢ハウス入り 込み	洗浄・消毒、皮下点滴	2023.8/30	1	2023.9/9 野生復帰
2023	9	17	アカガシラ カラスバト	奥村グラウンド 道沿いうずくまり	血液検査、レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 外用薬	2023.9/18~24	7	2023.9/24 多摩動物 公園に搬送
2023	9	27	アカガシラ カラスバト	死亡個体 高校グラウンドで 回収	レントゲン検査、病理解剖	2023.9/27	1	死因:斃死
2023	10	11	ヒシクイ	母島前浜河口 衰弱→死亡	診療のみ	2023.10/11	1	死因:斃死
2023	10	17	アナドリ	扇浦 うずくまり →死亡	レントゲン検査	2023.10/17	1	死因:斃死
2023	10	17	アナドリ	高校グラウンド 壁面衝突	レントゲン検査	2023.10/17	1	2023.10/19 野生復帰
2023	10	17	シロハラ ミズナギドリ	高校グラウンド 壁面衝突	レントゲン検査	2023.10/17	1	2023.10/19 野生復帰
2023	10	22	アナドリ	はは丸岸壁 不時着→死亡	レントゲン検査	2023.10/23	1	2023.10/26 死亡 死因:斃死
2023	10	22	アカガシラ カラスバト	死亡個体 奥村グラウンドで 回収(交通事故)	病理解剖	2023.10/27	1	死因:斃死
2023	10	26	オガサワラ オオコウモリ	扇浦結の道 衰弱→死亡	皮下点滴、病理解剖	2023.10/26	2	死因:斃死
2023	10	28	アカガシラ カラスバト	西町 建物奥でうずくまり	レントゲン検査、皮下点滴・ 注射、外用薬	2023.10/29~ 12/14	22	2023.12/14 野生復帰
2023	10	30	オガサワラ オオコウモリ	旭平 低木ぶら下がり	洗浄・消毒、皮下点滴・ 注射、外用薬、MRSA 検査	2023.10/30~ 11/5	7	2023.11/12 野生復帰
2023	11	17	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢ハウス 入り込み 9頭	経口補液	2023.11/17	計9	2023.11/24 野生復帰
2023	11	23	アカガシラ カラスバト	死亡個体 大根山道路で回収 (交通事故)	病理解剖	2023.12/12	1	死因:斃死
2023	11	29	アカガシラ カラスバト	死亡個体 湾岸道路で回収 (交通事故)	病理解剖	2023.12/13	1	死因:斃死
2023	12	2	アカガシラ カラスバト	死亡個体 咸臨丸墓地で回収 (交通事故)	病理解剖	2023.12/15	1	死因:斃死
2023	12	18	アカガシラ カラスバト	死亡個体 西町建物前で回収 (交通事故)	病理解剖	2023.12/27	1	死因:斃死
2022	-	-	オガサワラ カワラヒワ	域外繁殖用 飼育個体#6	糞便検査、爪切り、内服薬	2023.12/18~ 1/10	7	飼育継続中

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2024	1	22	アカガシラ カラスバト	死亡個体 奥村建物前で回収 (バードストライク)	病理解剖	2024.1/22	1	死因: 斃死
2024	2	21	アカガシラ カラスバト	死亡個体 扇浦建物前で回収 (バードストライク)	病理解剖	2024.2/21	1	死因: 斃死

### (3) 傷病鳥獣のリハビリ補助【動物対処室】

- ・リハビリ施設の見学のみで、リハビリ補助は未実施。

### (4) 普及啓発【希少連+村産観課】

- ・村民だより5月号(身近になったハトとコウモリの付き合い方)
- ・イルミネーション点灯式(12/16)

### 参考1: 希少鳥獣等の保護の状況【支庁産業課】

令和5年度に保護された野生鳥獣135個体(父島: 90個体、母島: 45個体)のうち希少鳥獣は35個体。そのうち野生復帰は23個体、内地搬送<sup>\*</sup>は3個体、飼養継続中は2個体、死亡は7個体。詳細は次のとおり。

○アカガシラカラスバト: 保護8羽

(野生復帰: 3羽、内地搬送: 3羽、死亡: 2羽)

○オガサワラオオコウモリ: 保護21頭

(野生復帰: 17頭、飼養継続中: 2頭、死亡: 2頭)

○オガサワラミズナギドリ: 保護3羽(野生復帰: 1羽、死亡: 2羽)

○アカオネツタイチョウ: 保護1羽(野生復帰: 1羽)

○ヒシクイ: 保護1羽(死亡: 1羽)

○クロアジアハウドリ: 保護1羽(野生復帰: 1羽)

※内地搬送: 上野動物園、多摩動物公園

### 参考2: 事故未然防止及び事故再発防止への対応状況【支庁産業課、環境省】

○交通事故防止看板の設置(行文線: 4/10-5/15、4/13-5/15、12/22-1/31、小港道路: 8/14-9/15、南進線: 7/12-)【支庁産業課】

○バードストライク防止用のバードセイバーの配付(17枚)【環境省、支庁】

(5) 残された課題と対応状況

残された課題	主体	対応状況	対応
「小笠原諸島における傷病鳥獣救護に関する考え方（仮称）」の整理	環境省	素案に対する関係機関からの意見を受け環境省内で検討中。	
MRSA等の感染防止対策の整理  対処室での治療方針の整理	I B O  対処室 (村)	IBO、環境省、小菊獣医師で検討した結果、感染予防対策は、専門的知識を有する対処室の獣医師を中心に再整理する方向にある。 対処室については(IV)動物対処室の運営(2)残された課題と対応状況(20頁)を参照。	
獣医師不在の母島での対応方針	産業課  環境省	一時保護飼養委託では治療や父島搬送は求めず、強制放鳥で問題ない。 長期飼養が見込まれる個体は調整がつけば父島に搬送。	済
計画段階(H24)では想定されていなかった対処室におけるリハビリや長期入院機能については、施設整備の主体や予算措置、改修・新設等を整理	I B O  環境省	野生動物の治療・入院施設として衛生管理できる隔離された小空間の必要性等、令和6年度第1回幹事会にてI B Oから環境省への提案資料として提出。 野生動物用施設の在り方については希少連部会等で検討予定。	
油汚染等傷病鳥獣救護に係る体制構築に向けた研修	環境省 対処室 (村)	WRVとの連携・予算化を環境省で検討 →R6は予算化できず。 環境省企画にて対処室獣医師による油汚染水鳥救護研修(試行版)を実施(2/19) →関係者向け研修の継続	
オガサワラカワラヒワへの対応	土木課 I B O	域外飼育事業において体調不良個体等の診療・処置を対処室獣医師が行う旨を同事業の仕様書に明記する。	済
死亡個体の病理解剖による死因究明	対処室 (村)  環境省 I B O	事故未然防止・事故再発防止策の検討材料とするために継続する。  病理解剖後の個体の行き先(国立環境研究所など)は環境省とI B Oで整理中	
治療費	環境省	協議会で当面負担するが、環境省等での整理を求める。	

## (Ⅱ) ペット由来の外来種である飼い主のいないネコ対策に関すること

### (1) 小笠原ネコに関する連絡調整部会の開催状況【IB0】

- 第1回 ネコ連部会：ネコ対策状況共有と課題への取組み（6月16日）
- 島内ネコ連部会①：派遣診療事前勉強会（9月6日）
- 環境省ノネコ対策事業検討会（10月24日）
- 島内ネコ連部会②：母島北進線・集落ネコ対策について（11月6日）
- 島内ネコ連部会③：硫黄島ネコの対応について（11月28日）
- 関係者によるWG・打合せ等
  - ①5/11（環境省・小笠原村・動物対処室・IB0）
    - ・母島幼ネコ保護の対応について
  - ②5/23・29（環境省・小笠原村・動物対処室・IB0）
    - ・ドック明け便でのネコ搬送、内地での幼ネコ譲渡について
  - ③9/6・7・8（環境省・小笠原村・動物対処室・IB0）
    - ・母島ノネコ由来の飼いネコ（産まれた仔ネコ3頭）の対応について
  - ④9/11（環境省・小笠原村・IB0）
    - ・母島ノネコ由来の飼いネコ（産まれた仔ネコ3頭）飼養者との面談
  - ⑤10/2・19（環境省・東京都・小笠原村総務課・環境課・動物対処室・IB0）
    - ・硫黄島コウモリ捕食疑いネコの対応について
  - ⑥10/12・18（動物対処室・小笠原村）
    - ・母島ノネコ由来の飼いネコ（仔ネコ1頭）飼養者との面談
  - ⑦10/12・13 メール（環境省・小笠原村・動物対処室・IB0）
    - ・母島ノネコ由来の飼いネコ（仔ネコ1頭）の対応について
  - ⑧10/13（小笠原村・IB0・東京都獣医師会）
    - ・硫黄島ネコの受け入れ対応依頼
  - ⑨10/19・20 メール（環境省・小笠原村・IB0）
    - ・東京都獣医師会内地イベント（動物感謝デー）対応打合せ
  - ⑩11/27（環境省・小笠原村・動物対処室・IB0）
    - ・母子分離となった哺乳幼ネコの対応について
  - ⑪10/27・12/5（環境省・IB0）
    - ・母島北進線のネコ捕獲について
  - ⑫1/30（小笠原村・動物対処室・IB0）
    - ・ねこまち産まれの仔ネコ譲渡について

### (2) 捕獲ネコへの対応【動物対処室、IB0】

- ・令和5年度に一時飼養施設（ねこ待合所）に滞在していたネコ54個体<sup>参考1</sup>（うち過年度捕獲1個体）のうち、計40個体に、一次的な診察・処置もしくは糞便検査等を実施。

- ・衰弱・体調不良個体の29個体（うち産後体調不良による入院1個体）に、点滴、注射、投薬、尿検査等の各種処置、内服薬処方、レントゲン検査・酸素投与・血液検査（入院個体のみ）、搬送先病院向けの治療経過報告書作成等を実施。
- ・幼ネコ20個体に一時飼養施設におけるネコの駆虫プログラム補助として初回駆虫薬選択のための糞便検査を実施。駆虫薬（ミルベマックス）費用は環境省事業で実費負担。
- ・未登録な飼養ネコ<sup>参考1</sup>のうち、2個体の仔ネコについては、東京搬送前に獣医師の技術研鑽のために9月に避妊・去勢手術を実施。
- ・40個体のほか、硫黄島捕獲ネコ<sup>(6)</sup>2個体については、環境省による検疫後、内部及び外部駆虫を実施、同室ダーティ倉庫にて14日間飼養。

### （3）島内譲渡ネコへの対応（動物対処室、動物協議会）

合計5頭について募集し、2頭譲渡した。

- ・母島住民が保護したネコから生まれ一般家庭で育てられたが、譲渡先が見つからない仔ネコ3頭（未登録な飼養ネコ<sup>参考1</sup>）のうち1頭を9月に譲渡した。2頭は東京搬送。
- ・母島住民が保護し、飼っていたが、適正飼養が困難な仔ネコ1頭（未登録な飼養ネコ<sup>参考1</sup>）は、10月に飼い主を募集したが、希望者がなく東京搬送。
- ・母島北進線で11月に捕獲したネコから1月16日に産まれた仔ネコを3月に譲渡。譲渡にあたり、親子の糞便検査を実施し駆虫薬を投与。

### （4）HP管理、譲渡促進等の普及啓発【IB0、動物協議会】

#### <島内向け>

- ・母島小学校5年生総合学習（南崎校外学習）11/9・10
- ・世界自然遺産地域連絡会議・科学委員会での事業説明
- ・オガサワラオオコウモリ保護増殖検討会での事業説明
- ・オガサワラカワラヒワ保護増殖検討会での事業説明
- ・島内掲示板（ネコの島内譲渡のお知らせ）9月・10月・2月
- ・村民だより3月号（ネコの島内譲渡のお知らせ）

#### <島外>

- ・感謝状贈呈
- ・日本獣医師会「2023 動物感謝デー in JAPAN」での活動報告 11/23
- ・読売新聞オンライン Web コラム「猫学(ニャンコロジー)」取材対応・連載
- ・日本ペットケアサービス「Huage」（人と動物のワンヘルス情報誌）  
オンライン取材対応、原稿チェック、画像貸し出し
- ・西東社「教養としての猫」画像貸し出し
- ・有川美紀子「ネコがくれたしあわせの約束」原稿チェック

- ・with PETs 「ペットと野生動物をめぐる問題」原稿チェック、画像貸し出し
- ・筑波大学小笠原自然遺産演習 8/27
- ・JWCS ワイルドライフカレッジ 2023 にてネコ対策について講演 10/11
- ・HP 運営

#### (5) 搬送状況【支庁産業課、動物協議会】

令和5年度に捕獲された51頭（R4年度37頭、通算：1083頭）を搬送。そのうち13頭は動物協議会負担による有償搬送

母島北進線で保護された2頭、ねこまち産まれの子の3頭の乳飲み子の搬送は、船内でもミルク哺乳を行い搬送した。

#### (6) 硫黄島捕獲ネコ

硫黄島にて、コウモリ捕食の疑いのある基地周辺のネコ2頭を9月29日に捕獲。現地での一時飼養ののち、11月23日にヘリコプターで父島へ搬送。世界遺産センター外来種処置室にて検疫後、動物対処室にて14日間飼養。硫黄島での捕獲や2ヶ月余りの飼養に必要な物品を動物協議会が提供。おがさわら丸での有償搬送1頭分と都内搬送は動物協議会が負担。東京都獣医師会有志の2病院にてネコ受け入れ。

#### 参考1：山域及び集落のネコ捕獲等の状況【環境省、村、IBO】

##### ○捕獲数

令和5年度に捕獲されたネコ45個体がノネコで、飼いネコの誤捕獲はなかった。保護捕獲後の衰弱等により搬送前に1個体死亡。

母島住民のノネコへの餌やりや拾いネコからの飼養を防止するため、休止していた北進線での捕獲を試験実施した。

このほか、ねこまちで産まれた仔ネコは4個体。母島でノネコ由来（拾いネコからの誕生、迷いネコへの餌やり）の未登録な飼養ネコ4個体。

詳細は次のとおり。

- ・父島山域ノネコ：19頭（R4年度13頭）【環境省】
- ・父島集落農地・保護ノネコ：5頭（R4年度0頭）【村、環境省、協力：IBO】
- ・父島保護ノネコ：0頭【村、環境省、協力：IBO】
- ・母島山域ノネコ：16頭（R4年度21頭）【環境省】

※環境省直轄捕獲作業として11月に実施した北進線の6頭を含む（協力：IBO）

- ・母島集落農地ノネコ：0頭（R4年度2頭）【村、協力：IBO】
- ・母島保護ノネコ：5頭（R4年度5頭）【村、環境省、協力：IBO】
- ・飼いネコ錯誤捕獲：0頭（R4年度母島0頭）

○捕獲圧

- ・ 父島山域：26719 罨日（R4 年度 43378 罨日）【環境省】
- ・ 母島山域：12096 罨日（R4 年度 11638 罨日）【環境省】
- ・ 父島集落農地：246 罨日（R4 年度 94 罨日）【村、協力：IB0】
- ・ 母島集落農地：835 罨日（R4 年度 652 罨日）【村、協力：IB0】

○集落内の未登録ネコの状況把握及び捕獲【小笠原村】

これまで実施してきた集落モニタリングが令和4年度で終了。山域から流入するノネコを確認次第迅速に捕獲対応する方針に変更し、再開準備中（小笠原村）。

母島自宅付近での餌やりから飼養していた仔ネコ1頭は、適正飼養が困難で東京搬送（未登録な飼養ネコのうちの1頭）。

参考2：捕獲ネコ受け入れの調整状況【環境省、東京都獣医師会】

○登録病院数 187病院

(7) 残された課題と対応状況

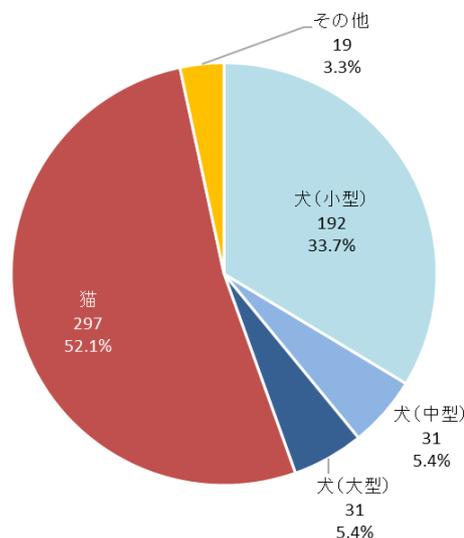
残された課題	主体	対応状況	対応
母島集落のノネコ対策のモニタリング（保全対象含む）、捕獲体制の戦略検討	IBO 村	農地（中ノ平）では、ヒワ出現把握および村&IBOが連携した捕獲体制がほぼ確立。 集落では村事業の集落モニタリングが令和4年度で終了。流入ノネコを確認次第迅速に捕獲対応する方針に変更し、令和6年度から環境課で集落モニタリングを開始予定。モニタリング実施者の捕獲許可は取得済み。	
母島北進線等未捕獲地域における島民（観光客）のノネコ保護による不適正飼養化	環境省 IBO	島民観光客向けの広報チラシを改定。保護連絡時の対応を整理。 令和5年度から関係者によるLINEグループを開始し、タイムリーな目撃情報を共有するシステムを作り運用。 11月に環境省直轄試験捕獲を実施（協力：IBO）。その後道路沿いに7台のセンサーカメラを設置し、モニタリングを実施。目撃撮影状況に応じた捕獲を検討中。	
母島未捕獲地域の石門等重要保全エリアでのネコ対策（新規） ※石門でアカガシラカラスバトの確認が急減	IBO 林野庁		
長期間治療が必要な個体の治療方針や日常的な処置の範囲は、ノネコ捕獲の事業主体が東京都獣医師会に助言を仰ぎつつ、懸案に応じて臨機応変に対応。	環境省 IBO	幼ネコの糞便検査については、動物対処室の協力により実施。	

残された課題	主体	対応状況	対応
母島は獣医師不在のため、母島で捕獲したノネコを父島に搬送する前に早急に措置が必要な場合は、保定や感染症対策等の課題があるため、現状の体制では困難。	I B O	体制のある父島への早期搬送で対応中。 母島の保護ネコの受け入れ施設としても運用可能な母島ネコ待ちの設置を準備中。令和6年6月頃設置見込み。(IBO)。	
妊娠ネコの扱い	I B O 環境省 協議会 (村)	捕獲ネコが妊娠していた場合、妊娠ネコでの引き受けが可能な動物病院を探索し、速やかに搬送する。 搬送前に出産した場合、母猫と仔猫をすべてまとめて引き受けが可能な動物病院を探索し、速やかに搬送する。 親子まとめた譲渡が不可能な場合、生後56日を経るまでは譲渡しない。その場合の一時飼養については、捕獲事業主体が費用負担することとし、島内譲渡とする場合は、協議会が費用負担する。	済
捕獲ネコの島内譲渡体制の現状整理	協議会 (村) I B O 環境省	ネコ飼養希望者リストを作成。現在1名記載。 捕獲ネコのうち、島内譲渡に適した個体については島内譲渡を検討する。 ネコプロジェクト外で保護されたネコや不適正飼養のネコについては、まず島内で譲渡先を探し、見つからない場合はネコ連で協議し対応する。	済
治療費	環境省 I B O	協議会で当面負担するが、捕獲事業主体での整理が必要。	

### (Ⅲ) ペット由来の外来種を生み出さないための適正飼養の推進

#### (1) ペットの診療を通じた適正飼養指導等【動物対処室】

- ・令和5年度は、106個体（猫51個体、犬49個体、その他（ウサギ、モルモット、ハムスター、文鳥、ウズラ）6個体）へのペット診療を延べ570回（内訳は下グラフ参照）実施。
- ・初診の飼い主に対しては、マイクロチップの装着確認と装着推奨を実施。マイクロチップ装着は猫4件（父島1件、母島3件）、犬2件（父島）、同室のみで実施した避妊・去勢手術は猫1件（父島）、犬2件（父島）、派遣診療時に実施した同手術は猫2件（母島）、犬3件（父島2件、母島1件）。
- ・母島向けには、巡回相談・診療を月1回、延べ12回行うとともに、必要に応じてオンライン診療による薬の処方や応急処置の指導等を実施。
- ・狂犬病予防集合注射の実施については、東獣と都内市区町村で覚書を結んでいることから、村は東獣の会員である対処室獣医師に依頼。犬の飼い主に村から案内を出し、動物対処室及び母島支所にて実施。
- ・受診したペットへは獣医師による飼養状況の把握（当該動物・同居動物の確認）を行い、村に情報共有。診療を通じたペットの適正飼養（飼育環境、食餌等）の相談又は指導を実施。



図：令和5年度の動物種別の診療実績

#### (2) 飼い主の利用促進を図った無料相談の推進【動物対処室】

- ・無料相談の実績は、犬へのしつけ指導38件、飼い方相談8件（犬5件、猫3件）。
- ・新たなペットの飼養に関する事前相談があり、飼養開始前に適正飼養の指導を実施。
- ・外に出てしまう猫の飼い主への適正飼養の指導。
- ・犬の飼い方ルール（ノーリード、散歩時の糞便）に関する適正飼養の指導。

表：令和5年度の診療内容一覧

診療内容（疾患名）	イヌ	ネコ	その他
泌尿器疾患	4	125	0
皮膚疾患	38	22	0
耳の疾患	8	2	0
歯・口腔内疾患	7	7	0
眼の疾患	9	2	3
循環器疾患	0	7	0
消化器疾患	14	27	3
肝・胆・膵疾患	6	10	0
呼吸器疾患	1	12	0
神経疾患	11	3	0
筋骨格系疾患	4	0	0
血液・免疫疾患	0	0	0
生殖器疾患	0	0	0
内分泌疾患	0	16	0
腫瘍疾患	8	18	0
寄生虫症	3	7	0
感染症	0	33	0
外傷	7	0	6
誤食・中毒	2	1	0
日常ケア	46	5	4
その他の症状・疾患	3	4	2
予防診療			
健康診断	4	16	1
フィラリア予防	73	6	0
ノミ・ダニ予防	61	12	0
内部寄生虫駆除・予防	1	8	0
混合ワクチン接種	30	24	0
狂注接種（集合注射以外）	7	0	0
マイクロチップ装着	2	4	0
避妊・去勢手術	5	4	0
しつけ	38	0	0
相談	3	5	0
物販	2	2	0

※1件で複数の診療内容の場合があるため、診療実績と診療内容数の合計は異なる。

表：令和5年度の動物種別カルテ

動物種	カルテ数
犬（小型）	38
犬（中型）	16
犬（大型）	8
猫	60
その他	14

※これまでに受診したその他ペット  
 モルモット  
 ハリネズミ  
 ニワトリ  
 ハムスター  
 ウサギ  
 セキセイインコ  
 文鳥  
 ウズラ

(3) ペットの飼養状況の把握【村、動物対処室】

表：ネコの登録状況と動物対処室受診状況

	父島				母島			
	2011年度	2017年度	2022年度	2023年度	2011年度	2017年度	2022年度	2023年度
台帳登録数	92	61	52	45	16	11	20	23
新規登録数	-	4	6	2	-	0	1	3
登録世帯数	59	44	36	32	7	6	14	16
最大多頭飼養数	13	4	4	4	4	3	3	3
マイクロチップ装着率	85%	91.8%	98.1%	95.6%	63%	90.9%	100%	100%
避妊去勢率	96%	96.7%	100%	97.8%	100%	100%	95.0%	100%
室内飼養率	41%	83.7%	96.2%	95.6%	25%	27.3%	85.0%	91.3%
受診率 (累積) ※1	-	36.7%	86.5%	91.1%	-	18.2%	80.0%	82.6%
飼い主受診率 (累積) ※1	-	38.6%	83.3%	87.5%	-	33.3%	85.7%	87.5%
単年受診数 ※2	-	26	33	34	-	2	14	17
ワクチン接種数 ※3	-	-	9	13	-	-	8	11

表：イヌの登録状況と動物対処室受診状況

	父島			母島		
	2017年度	2022年度	2023年度	2017年度	2022年度	2023年度
台帳登録数	68	53	55	10	9	10
新規登録数	7	11	5	0	4	2
登録世帯数	54	43	46	10	8	9
最大多頭飼養数	7	5	5	1	1	2
マイクロチップ装着率	67.6%	64.2%	67.3%	90.0%	88.9%	90%
避妊去勢率	-	77.4%	74.5%	-	55.6%	60%
受診率 (累積) ※1	47.1%	96.2%	96.4%	80.0%	88.9%	90%
飼い主受診率 (累積) ※1	48.1%	95.3%	97.8%	80.0%	87.5%	88.9%
単年受診数 ※2	36	41	40	8	10	9
狂注接種数 ※4	-	47 (5)	48 (2)	-	7 (1)	10

※1：台帳抹消のネコ、イヌ除く

※2：台帳抹消のネコ、イヌ含む

※3：対処室にて混合ワクチンを接種したネコ（内地のかかりつけ医は含まない）

※4：台帳抹消のイヌ除く。接種数には猶予（不適當）を含み、カッコ内は猶予の件数を示す

#### (4) 普及啓発【村、動物協議会】

##### ○村民だより

- ・動物対処室の電話番号変更のお知らせ（4月）
- ・転入者への普及啓発（5月：村）
- ・母島巡回ペット診療・相談（毎月）
- ・動物派遣診療 講演会のお知らせ（11月号）

#### (5) その他【村、動物協議会】

##### ○動物派遣診療1（9月14～19日：動物協議会）

東京都獣医師会の獣医師3名による動物派遣診療を実施した。

##### ・犬・猫 避妊去勢手術（動物対処室 9/16, 17）

上野会長、高橋理事、中村獣医師とともに小菊獣医師が避妊去勢手術を計5件実施した。

表：動物派遣診療1 対応実績一覧

雄猫(頭)		雌猫(頭)		雄犬(頭)		雌犬(頭)	
父島	母島	父島	母島	父島	母島	父島	母島
			2	1	1	1	

##### ・現地視察

15日の午後は、父島の岩山、ねこまち視察を行った。ネコ隊の取組や捕獲ネコの一時的飼育状況等の現場視察と説明を実施するとともに、ノネコの新たな捕獲方法の検討も行った。

##### ・意見交換

15日の午後に飼い主の会代表（父島）と、17日の午前中に飼い主の会代表（母島）との意見交換を行った。

18日の午前中に関係機関・団体と、対処室の設備・体制、犬の適正飼養等について、意見交換を行った。



飼い主の会代表との意見交換



手術風景



関係機関・団体との意見交換

## ○動物派遣診療2（12月2～7日：動物協議会）

東京都獣医師会の入交獣医師による動物派遣診療を実施した。

### ・犬・猫 飼い主相談（父島 12/3,4 母島 12/5,6）

動物の行動学が専門である入交獣医師が、しつけや飼い方について無料で個別にアドバイスをを行った。

表：動物派遣診療2 対応実績一覧

猫(頭)		犬(頭)	
父島	母島	父島	母島
4	2	7	5

### ・講演会

3日の夜に父島、5日の夜に母島において、入交獣医師による講演会「しっぽがある家族との楽しいくらしかた 小笠原ばーじょん」を開催した。

父島：小笠原遺産センター 18:30～20:00 関係者含め18名参加

母島：母島支所 大広間 18:30～20:10 関係者含め22名参加

### ・意見交換等

4日の午後にネコ連関係者とノネコの新たな捕獲方法の検討を行った。同日夜には、動物福祉についての簡単なレクチャーを行った



飼い主相談の様子



講演会（母島）



集合写真

## 参考：ペット条例の運用【村】

### ○広報

- ・ 転入者への転入時のペット条例のパンフレット配布（随時）
- ・ 村民だより5月号（転入者への普及啓発）
- ・ 村民だより9月号（動物愛護週間とペット防災）
- ・ 村民だより12月号以降、毎月（飼養登録のお願い）
- ・ 座談会（犬の適正飼養のあり方～ペット条例の改正に向けて～、質疑応答）
  - 父島：小笠原遺産センター 12/3 20:00～20:15 関係者含め18名参加
  - 母島：母島支所 大広間 12/5 20:10～20:40 関係者含め22名参加
- ・ リーフレットを船待3ヶ所、ビジター、遺産センター、Bシップに設置。内地の観光関係団体等に配布。
- ・ パネルを船待3ヶ所、遺産センター、役場環境課ロビー、動物対処室に掲示

○飼養登録（令和5年度末時点）→155世帯登録

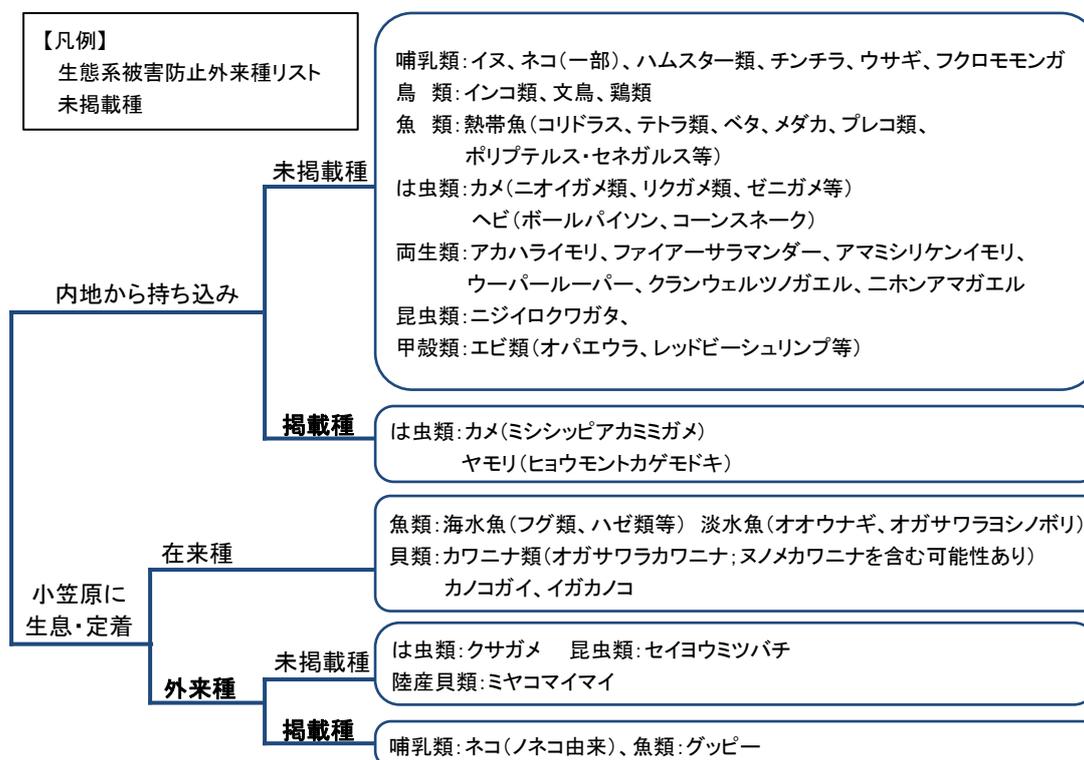
（内訳は下表、登録動物種は下図参照）

表：飼養登録状況

動物種	猫	犬	その他
登録頭数（父・母）	68（45・23）	65（55・10）	121（109・12）
登録世帯数（父・母）	48（32・16）	55（46・9）	62（56・6）

※ネコ、イヌ、その他のペットを複数種飼養している世帯があるため、重複がある

※“その他”の主な抹消種は、ヤギ、ハムスター、ニワトリ、ヘビ・トカゲ、カブトムシ・キリギリス、グッピー、在来種のヌマエビ・クワガタなど



図：登録動物の分類

○登録飼い主向けの対応

- ・飼養登録申請後に飼養登録証を発行（随時）
- ・飼い主案内を郵送にて発行（9・11月：動物派遣診療のお知らせ含む、3月：飼養状況報告のお願い・入交先生の講演会動画の配信お知らせ含む）

○審議会

- 第1回（4月27日）犬の繁殖を防止するための措置等について、継続審議
- 第2回（11月10日）犬の繁殖を防止するための措置等について、継続審議  
→答申案が可決

○条例改正（令和6年度から）

審議会からの答申（参考資料2参照）及び令和6年第1回村議会定例会の議決を受け、以下のように条例改正

■飼い犬へのマイクロチップ装着を義務化

■同一世帯又は同一施設内で飼える犬の数は5頭まで

条例に規定するものではないが、犬を新規に飼養する場合や繁殖を希望する場合には事前に対処室獣医師に相談をすることを周知する。

（6）残された課題と対応状況

残された課題	主体	対応状況	対応
ペット飼養を否定しない環境づくりとノネコのノラネコ化防止については、むやみな餌やり防止等の村民全体の動物との付き合い方の意識醸成を図る。	協議会 (村)	令和4、5年度は入交獣医師によるしつけ教室・飼い方相談を実施。今後は、東京都動物愛護センターによるしつけ教室等も検討する。 ネコの島内譲渡は村民からのニーズ等に応じ対応中。	
母島のペット診療は診療場所の広さ、衛生面に大きな課題がある。	協議会 (村)	令和5年度から診療場所が母島支所の屋外倉庫から支所2階の小会議室になったことで、広さと衛生面の課題はクリアできた。ただし、手術は衛生面を考慮し対処室で実施。	済
犬の繁殖防止措置を推進するための対処室で避妊去勢手術を実施できる設備・体制の整備。	協議会 対処室 (村)	令和4、5年度は東京都獣医師会の派遣診療により犬の避妊去勢手術等を実施。 令和5年度末現在、犬猫とも対処室での避妊去勢手術が可能。	済
犬猫の適正飼養の強化を図り「小笠原における【ネコ・イヌ】の適正飼養ガイドライン（仮称）」の作成を検討する。	村 I B O	犬のガイドライン構成案を検討中。	
ペットの診療手数料については、飼い主の診療ニーズを把握し、過剰診療とならないよう適切・適度な診療の実施に努める。	対処室 (村)	1頭当たりの年間平均手数料 H30：84,906円 R1：113,761円 R2：65,397円 R3：63,603円 R4：63,769円→ <b>R5：48,423円</b>	済
飼い主の診療ニーズに応じながら効率的な診療を実施するため、診療内容や検査量の精査を継続中。	対処室 (村)	1頭当たりの平均診療回数 H30：8.3回 R1：9.9回 R2：6.2回 R3：6.2回 R4：5.7回→ <b>R5：5.4回</b> なお、週3日だったペット向け診療日を実質週5日とし、予約を取りやすくした。	済
村と対処室で連携してペット条例に基づくペットの飼養状況を把握するとともに、ペット診療を通じた飼養状況の確認と適正飼養指導等実施。	対処室 村	今後は対処室と村で飼い主訪問等を実施予定。	

## (IV) 動物対処室の運営【動物協議会】

### (1) 実施報告

協議会の事業を推進させることを目的に、関係機関・団体それぞれが実施している事業と連携する形で、野生動物の治療や必要に応じたノネコの処置、ペット診療及び診療行為を通じた適正飼養の指導を実施した。

○獣医師、動物看護師と事務局（環境課自然環境係）で運営

○出前授業・飼育講習

- ・小笠原小学校1年生向けにニワトリを用いた動物ふれあい授業(10月)
- ・小笠原小学校飼育栽培委員会(4～6年生)と担当教員へのニワトリの飼育講習(10月:獣医のお仕事、2月:動物たちのきもち)
- ・母島小学校はニワトリがないため未実施

○動物対処室の視察・見学対応

6月 田村獣医師

シモヅノ学園国際動物専門学校 先生2名・学生8名

7月 環境省関東地方環境事務所 所長

9月 東京都自然環境部緑環境課 粕谷課長代理

東京動物園協会 福田園長、渡部園長、平野獣医師、高橋飼育員

10月 竹谷参議院議員

くぼた動物病院 野馬獣医師

11月 東京都家畜保健衛生所 藤森課長代理

1月 東京女子大学 石井名誉教授

兵庫県立大学 出口准教授

3月 東京動物園協会 高橋飼育員、小川氏、八巻氏

日本大学 三谷先生、学生2人

奄美哺乳類研究会 阿部獣医師

○MRSA院内感染対策

- ・令和3年8～9月に同室で治療したオオコウモリからMRSAを検出したとの報告を令和4年1月に受けて以降、ペットと野生動物の診察場所を分離。
- ・令和4年5～7月に同室の物品・スタッフからMRSAを検出したことを受け、「MRSA院内感染対策マニュアル」を作成し、暫定的な措置として、新たな野生動物は同室に搬送せず、ペットと野生動物の動線、設備等の分離を徹底
- ・令和4年7月以降の野生動物への対応は、遠隔指示及び物品提供のみ
- ・令和5年3月に同室全体の消毒を実施。業者による次亜塩素酸ナトリウム液（ピューラックス）を使用した床と壁の消毒。
- ・4月に獣医師が交代したため、往診対応のみで傷病鳥獣の治療を再開。

- ・ 6月9日に同室全体の消毒を実施。小菊獣医師指導により協議会関係者で徹底した片付け・清掃・消毒。消毒薬の「ピューラックス」、「アンテックビルコン S」、消毒用アルコール、ホルマリンを使用し、場所や物に応じて、清拭、噴霧、浸漬、蒸気消毒を組み合わせて実施。以降はレントゲン検査等の入室が必要な検査等を暫定的に再開

表：令和5年度の事業別実績

事業名	(Ⅰ)野生動物の保護	(Ⅱ)飼い主のいないネコ対策	(Ⅲ)ペットの適正飼養の推進
診療個体数	46個体	42個体	106個体
診療延べ回数	230回	222回	570回
(割合)	22.5%	21.7%	55.8%
平均診療回数	5回/個体	5.3回/個体	5.4回/個体
最大診療回数	26回/個体(コウモリ) ハト入院個体除く	25回/個体(入院個体)	61回/個体(ネコ)
診療費合計*	1,994,036円	1,410,585円	5,132,838円
(割合)	23.4%	16.5%	60.1%
平均診療費*	43,349円/個体	33,585円/個体	48,423円/個体

※(Ⅰ)及び(Ⅱ)の診療費は作業量の目安として算出

## (2) 残された課題と対応状況

残された課題	主体	対応状況	対応
MRSA感染症予防対策として、「動物対処室におけるMRSA院内感染対策マニュアル」を作成中。現時点のものは、ペット診療時等の一般的な予防策のみの記載となっているため、野生鳥獣対応時の内容を検討中。	対処室 (村)	対処室の現獣医師がマニュアルを精査中であるものの、同室でペットと野生動物の両方の診療・治療をしながら完全な感染対策を定めることは難しいのが現状である。	
現在の協議会運営は、村の負担金とペット診療手数料のみで成り立っている。各構成機関等による負担の考えを整理する必要がある。	協議会 全体		
現在、清掃等を行う用務員が不在となっている。令和5年度の対処室の体制を鑑みつつ、清掃・庶務業務への人員の必要性・雇用形態等を検討する。	対処室 (村)		
令和4年度に給与規定を一部見直したが、昇給時期、経験年数等も整理する必要がある。	協議会 (村)		
村負担金の交付及び村が協議会の事務局を担っていることに関して、小笠原村会計監査員から適切でない旨の指摘を受けている(R5.8.29)。負担金交付の在り方と村が事務局業務を担っていることについて検討する必要がある。	協議会 全体	令和5年度第2回幹事会にて構成団体に報告。 動物協議会の運営の在り方について、令和6年度第1回幹事会にて洗い出した事業スキーム案を構成団体で共有。	

参考：動物対処室の事業別作業量（平成29年度から令和5年度）

事業名	(1)野生動物の保護	(2)飼い主のいないネコ対策	(3)ペットの適正飼養の推進
平成29年度			
診療個体数	31個体	22個体	77頭
診療延べ回数	約260回	約190回	666回
割合	23.3%	17%	59.7%
平均診療回数	8.4回/個体	8.6回/個体	8.6回/頭
最大診療回数	86回/個体(飼育個体)	146回/個体(糖尿病個体)	42回/頭
平成30年度			
診療個体数	24個体	53個体	76頭
診療延べ回数	194回	314回	634回
平均診療回数	8.1回/個体	5.9回/個体	8.3回/頭
最大診療回数	57回/個体	73回/個体	42回/頭
診療費合計*	1,712,400円	2,505,241円	6,452,890円
割合	16.0%	23.5%	60.5%
令和元年度			
診療個体数	17個体(うち飼育個体5個体)	42個体	72頭
診療延べ回数	406回(うち飼育個体191回)	114回	716回
平均診療回数	23.9回/個体	2.7回/個体	9.9回/頭
最大診療回数	81回/個体(飼育個体)	17回/個体	52回/頭
診療費合計*	3,013,794円	988,999円	8,190,754円
割合	24.7%	8.1%	67.2%
令和2年度			
診療個体数	15個体	67個体	109個体
診療延べ回数	314回	320回	671回
平均診療回数	20.1回/個体	4.8回/個体	6.2回/頭
最大診療回数	56回/個体	52回/個体	38回/個体
診療費合計*	2,617,978円	3,619,737円	7,128,273円
(割合)	19.6%	27.1%	53.3%
令和3年度			
診療個体数	14個体	18個体	113個体
診療延べ回数	215回	41回	701回
平均診療回数	15.4回/個体	2.3回/個体	6.2回/頭
最大診療回数	56回/個体	6回/個体	34回/個体
診療費合計*	1,463,627円	297,275円	7,187,195円
(割合)	16.4%	3.3%	80.3%
令和4年度			
診療個体数	7個体	26個体	106個体
診療延べ回数	383回(ハト入院含む)	35回	603回
平均診療回数	54.7回/個体	1.3回/個体	5.7回/頭
最大診療回数	302回/個体(入院個体)	5回/個体	30回/個体
診療費合計	1,601,171円	250,283円	6,759,512円
(割合)	18.6%	2.9%	78.5%
令和5年度			
診療個体数	46個体	42個体	106個体
診療延べ回数	230回	222回	570回
平均診療回数	5回/個体	5.3回/個体	5.4回/個体
最大診療回数	26回/個体(コウモリ) ハト入院個体除く	25回/個体(入院個体)	61回/個体(ネコ)
診療費合計	1,994,036円	1,410,585円	5,132,838円
(割合)	23.4%	16.5%	60.1%

※平成30年度からは飼い主価格（1、2の診療費は作業量の目安）をもとに作業量を比較。

参考：主な野生動物の対応実績（平成 29 年度から令和 4 年度）

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
平成 29 年度以前に保護された個体、IBO 飼育個体								
2009	11	20	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	血液検査、糞便検査、 皮下点滴・注射	2017.11/18~21	6	2017.11/21 死亡
2009	12	31	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 健康診断、 元気低下	血液検査、細胞診、 皮下点滴・注射	2018.5/24 2019.7/4~1/28	26	飼育継続中
2011	9	15	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 健康診断	血液検査、内服薬	2019.8/1~3/27	9	飼育継続中
2012	9	27	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 健康診断	血液検査	2017.12/5	1	2018.2/26 死亡
2014	8	5	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	細菌学的検査、 皮下注射、翼膜洗浄、 外用薬塗布	2017.9/21~11/21	86	2017.12/11 死亡
2016	6	20	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	血液検査、皮下注射、 外用薬塗布	2017.6/23~7/20	20	2020.8/10 死亡
2016	8	25	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 爪の外傷	皮膚検査、外用薬塗布、 内服薬、皮下注射	2018.5/10~5/23、 8/16~8/21 2019.10/1~3	9	飼育継続中
2017	1	4	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体) 翼膜の外傷	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.10/14~3/27	81	飼育継続中
平成 29 年度 下記の他、海鳥類 11 羽(シロハラミズナギドリ 2 羽、セグロミズナギドリ 1 羽、カツオドリ 2 羽、 コゲンカンドリ 1 羽、ハワイセグロミズナギドリ 1 羽、アナドリ 2 羽、オナガミズナギドリ 1 羽、 シラオネツタイチョウ 1 羽)、その他の鳥類 10 羽を治療								
2017	4	17	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 キュウリネット 絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、内服薬	2017.4/18~6/1 2018.5/26	71	2018.5/27 野生復帰
2017	7	6	オガサワラ オオコウモリ	扇浦 キュウリネット 絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射	2017.7/7~13	12	2017.7/13 野生復帰
2017	8	22	アカガシラ カラスバト	大根山汚水 処理場の沈殿槽 に落下	スワブ検査、皮膚検査、 保温、皮下点滴・注射、 外部寄生虫駆除	2017.8.22	1	2017.8/23 死亡
2017	8	25	オガサワラ オオコウモリ	農セン展示園	血液検査、保温、 皮下点滴・注射、 外部寄生虫駆除	2017.8/25	1	2017.8/26 死亡
2017	9	4	コアホウドリ	父島周辺の 海上	レントゲン検査、保温、 皮下点滴・注射、 外部寄生虫駆除	2017.9/4~14	5	2017.9/15 野生復帰
2018	1	31	アカガシラ カラスバト	清瀬(若鳥)	糞便検査、強制給餌、 皮下点滴・注射、内服薬	2018.1/31~2/9	10	2018.2/19 野生復帰
平成 30 年度 下記の他、カツオドリ、アナドリ 2 羽、メダイチドリ、トラツグミを治療								
2018	5	11	オガサワラ オオコウモリ	コーヒー山 高木果樹 ネット絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射	2018.5/11~23	21	2018.5/24 野生復帰
2018	6	15	オガサワラ ノスリ	小港ロータリーで 衰弱	皮下点滴・注射	2018.6/15~16	2	2018.6/17 死亡
2018	6	27	アカガシラ カラスバト	小学校の 窓ガラスに衝突	死亡確認	2018.6/27	1	2018.6/27 死亡

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島 キュウリ ネット絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射 ※母島応急処置あり	2018.7/4~7/26	33	2018.8/3 野生復帰 (母島) →2019.6.1 死亡発見
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島 ハウス 侵入(絡まり)	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射 ※母島応急処置あり	2018.7/4~6	3	2018.7/7 野生復帰 (母島)
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島 ハウス 侵入(絡まり)	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射 ※母島応急処置あり	2018.7/4~6	3	2018.7/7 野生復帰 (母島)
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島 キュウリ ネット絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射 ※母島応急処置あり	2018.7/4~13	18	2018.7/14 野生復帰 (母島)
2018	8	8	アカガシラ カラスバト	テグス絡まり	皮下点滴・注射	2018.8/8~9	2	2018.8/9 死亡
2018	8	27	オガサワラ オオコウモリ	都道脇にて 親からの脱落	血液検査、 皮下点滴・注射	2018.8/27~29、 10/24	4	飼育継続中
2018	10	12	オガサワラ オオコウモリ	桑の木山 有刺鉄線 絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射	2018.10/12~ 11/27	57	2019.1/15 野生復帰
2018	10	22	オーストン ウミツバメ	扇浦で人工灯誘 因	皮下点滴・注射	2018.10/22	1	2019.10/24 死亡
2019	1	4	アカガシラ カラスバト	西町で人工物衝 突	皮下点滴・注射、 強制給餌	2018.1/5	2	2019.1/6 死亡
2019	1	26	オガサワラ オオコウモリ	奥村で衰弱(幼 獣)	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射	2019.1/26	1	2019.1/31 死亡
2019	1	31	オガサワラ オオコウモリ	二見港で衰弱(亜 成獣)	血液検査、 皮下点滴・注射	2019.1/31	1	2019.1/31 死亡
2019	3	16	アカガシラ カラスバト	長谷トンネル 交通事故	皮下点滴・注射、 強制給餌、ICU(入院、 保温)	2019.3/16~26	17	2019.3/26 多摩動物 公園へ搬送
2019	3	24	アカガシラ カラスバト	宮之浜道で 電線衝突	レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 ICU(入院、保温)、包帯	2019.3/24~26	5	2019.3/26 上野動物園へ 搬送
令和元年度 下記の他、メジロを治療								
2019	4	6	オガサワラ オオコウモリ	東町 テグス絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.4/6~7/5	44	2019.7/9 野生復帰
2019	4	6	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 キュウリネット絡 まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.4/6~7/8	56	2019.7/9 野生復帰
2019	5	10	オガサワラ オオコウモリ	奥村 防鳥ネット 絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.5/10~6/25	30	2019.7/5 野生復帰
2019	5	20	オガサワラ オオコウモリ	母島元地 ネット絡まり	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒 ※母島応急処置あり	2019.5/21~6/25	24	2019.6/29 野生復帰 (母島)

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2019	6	21	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 ハウス 迷い込み	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.6/21~7/2	7	2019.7/5 野生復帰
2019	7	4	アカガシラ カラスバト	奥村 ガラス扉内 迷い込み	糞便検査、強制給餌、 皮下点滴・注射、内服薬	2019.7/4~25	21	2019.7/27 野生復帰
2019	7	9	アカオ ネットアイ チョウ	おが丸 うずくまり	皮下点滴・注射、 ICU(入院・保温)、 食餌介助	2019.7/9~26	19	2019.7/27 野生復帰
2019	7	21	アカガシラ カラスバト	大神山公園 ガラス衝突	レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 糞便検査	2019.7/21~26	6	2019.7/27 野生復帰
2019	7	29	オナガ ミズナギドリ	三日月山 うずくまり	診察	2019.7/29	1	2019.8/2 野生復帰
2019	8	9	オガサワラ ノスリ	北袋沢 うずくまり	血液検査、 皮下点滴・注射、 ICU(入院・保温)	2019.8/9~12	4	2019.8/12 死亡
2019	9	7	オガサワラ オオコウモリ	西町 枝ぶらさがり	眼科検査	2019.9/7	1	2019.9/8 野生復帰
令和2年度								
2020	4	14	アカガシラ カラスバト	大神山公園 うずくまり	皮下点滴・注射、 ICU(入院・保温)、 糞便検査、翼洗浄・消毒	2020.4/14~19	12	2020.4/19 多摩動物 公園へ搬送
2020	7	28	オガサワラ オオコウモリ	農セン内 バナナの 繊維絡まり	血液検査、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2020.7/29~9/7	49	2020.9/8 野生復帰
2020	7	29	アカオ ネットアイ チョウ	おが丸 うずくまり	レントゲン検査、皮下点 滴・注射、強制給餌、 ICU(入院・保温)	2020.7/29~8/1	6	2020.8/1 上野動物園へ 搬送
2020	8	12	オガサワラ ノスリ	中山峠 うずくまり	皮下点滴・注射、 ICU(入院・保温)、 強制給餌、糞便検査	2020.8/12~21	14	2020.8/21 野生復帰
2020	11	12	オガサワラ オオコウモリ	西町 骨折・衰弱 (亜成獣)	皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒、 レントゲン検査、血液検 査	2020.11/16~17	4	2020.11/17 上野動物園へ 搬送
2020	12	16	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり (妊娠♀)	レントゲン検査、 血液検査、皮下点滴・ 注射、 翼膜洗浄・消毒	2020.12/16~ 2021.2/16	56	2021.4/5 リハビリ経て 野生復帰
2020	12	21	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり (妊娠♀)	血液検査、皮下点滴・ 注射、 翼膜洗浄・消毒	2020.12/21~ 2021.2/16	50	2021.4/5 リハビリ経て 野生復帰
2021	1	4	アカガシラ カラスバト	旭平 うずくまり	レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 強制給餌、包帯法、 ICU(入院・保温)	2021.1/4~10	12	2021.1/10 上野動物園へ 搬送 (1/14 死亡)
2021	3	12	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり (妊娠♀)	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/12~4/1	28	2021.4/5 野生復帰

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2021	3	12	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/12~30	24	2021.4/1 野生復帰
2021	3	12	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ネット絡まり	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/12~22	11	2021.3/26 野生復帰
2021	3	13	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ハウス 迷い込み	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/13~4/1	17	2021.4/1 野生復帰
2021	3	13	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ハウス 迷い込み	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/13~19	8	2021.3/20 野生復帰
2021	3	13	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ハウス 迷い込み	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/13~19	8	2021.3/20 野生復帰
2021	3	13	オガサワラ オオコウモリ	長谷 ハウス 迷い込み	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒、 爪切り	2021.3/13~30	16	2021.4/1 野生復帰
令和3年度								
2021	4	14	アカガシラ カラスバト	父島長谷橋 うずくまり	レントゲン検査、 洗浄・消毒、皮下注射	2021.4/19~20	2	2021.4/20 多摩動物 公園に搬送
2021	4	19	アカガシラ カラスバト	父島長谷トンネル うずくまり	レントゲン検査、 洗浄・消毒、 皮下点滴・注射	2021.4/19~20	2	2021.4/20 多摩動物 公園に搬送
2021	6	29	オガサワラ オオコウモリ	父島桑ノ木山 ネット絡まり (妊娠中)	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒	2021.6/29~9/2	56	2021.9/10 野生復帰
2021	6	29	オガサワラ オオコウモリ	父島桑ノ木山 ネット絡まり	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒	2021.6/29~8/12	50	2021.9/10 野生復帰
2021	6	29	オガサワラ オオコウモリ	父島桑ノ木山 ネット絡まり (亜成獣)	血液検査、皮下点滴・ 注射、翼膜洗浄・消毒	2021.6/29~7/30	45	2021.9/10 野生復帰
2021	7	25	オガサワラ ノスリ	洲崎ネコ かご混獲	状態確認	2021.7/25	1	2021.7/25 放鳥
2021	8	3	オガサワラ オオコウモリ	清瀬都住近くの 林 ぶら下がり	血液検査、 レントゲン検査、 皮下点滴・注射	2021.8/3~10/6	21	2022.1/3 野生復帰
2021	8	8	オガサワラ オオコウモリ	西町 ぶら下がり (亜成獣) 右翼開放骨折	血液検査、外用薬塗布、 レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2021.8/8~11 ※内地にて MRSA 検出	6	2021.8/11 上野動物園に 搬送 →2023.5/19 安楽殺
2021	8	19	アカガシラ カラスバト	バス営業所 バードストライク	レントゲン検査 皮下点滴・注射、 ICU(入院、保温)	2021.8/19~20	2	2021.8/20 放鳥
2021	9	9	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 ぶら下がり 左上腕骨解放骨折	血液検査、マッサージ、 レントゲン検査、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2021.9/10~19 ※内地にて MRSA 検出	11	2021.9/19 上野動物園に 搬送 →12/20 死亡

保護			種	保護状況	動物対処室等の対応状況			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2021	9	25	オガサワラ オオコウモリ	母島評議平 ネットハウス 迷い込み	皮下点滴・注射	2021.9/25~10/4	16	2021.10/9 野生復帰 (母島)
2021	11	11	アカガシラ カラスバト	宮之浜 バードストライク	皮下注射、ICU、 レントゲン検査(死亡後)、	2021.11/11	1	2021.11/11 死亡
2022	3	4	アカガシラ カラスバト	母島 村民会館 バードストライク	皮下注射、 MRSA 検査→陰性、 レントゲン検査	2022.3/7	1	2022.3/9 野生復帰 (母島)
2022	3	6	カツオドリ	扇浦海岸 うずくまり	MRSA 検査(死亡後) →陰性	2022.3/8	1	2022.3/7 死亡
2022	5	30	アカガシラ カラスバト	屏風谷トンネル 歩行(幼獣)	入院、ICU、糞便検査、 皮下点滴・注射、投薬、 MRSA 検査→陰性	2022.5/30~ 6/2	4	2022.6/2 野生復帰
2022	6	30	アカガシラ カラスバト	扇浦 うずくまり 右癒合鎖骨 骨折	入院、ICU、糞便検査、 レントゲン検査、皮下点 滴・ 注射、MRSA 検査→陰性	2022.7/1~21	42	2022.7/21 上野動物園へ 搬送
2022	7	11	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 ネット絡まり	指示のみ(消毒、皮下点 滴・注射、MRSA 検査)	2022.7/11~ 8/1	9	2022.9/16 野生復帰
2022	7	18	オガサワラ オオコウモリ	北袋沢 ハウス迷い込み	指示のみ	2022.7/22~ 23	2	2022.8/16 野生復帰
2022	7	28	オガサワラ オオコウモリ	長谷 有刺鉄線 絡まり	指示のみ(消毒、皮下点 滴・注射)	2022.7/28~ 8/9	23	2022.9/16 野生復帰
2018	8	15	オガサワラ オオコウモリ	(IBO 産まれ 飼育個体) 翼膜の外傷	血液検査、外用薬塗布、 皮下点滴・注射、 翼膜洗浄・消毒	2019.11/21~ 1/28	74	2023.2/23 どうぶつたちの 病院沖縄へ 搬送 →5/3 帰島 飼育継続中
					指示のみ(内服薬処方)	2023.2/15	1	